

第6回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、作文や絵にくわしくかいてみよう

伊達佐重

だて・すけしげ
1932年三笠市生まれ
学芸大学札幌分校修了
三笠市立教育研究所所員
空知教育研修センター講師

○入選者

金賞

伊藤 結美(恵庭市立若草小学校四年)

タンポポの研究

銀賞(二点)

秋葉 凜樹(函館市立東山小学校一年)

なつとぼくと虫たち

坂 尚憲(札幌市立緑丘小学校六年)

クモの観察

銅賞(六点)

嶋崎 孝平(小樽市立望洋台小学校五年)

木に集まる虫しらべ

坂 和優(札幌市立緑丘小学校四年)

だんご虫の観察

本間 詩織(札幌市立太平小学校三年)

カイコの一生

政田 駿(札幌市立南の沢小学校三年)

ありじごくの観察

樋田 梢(釧路市立旭小学校二年)

しつげんのホタル

山本 拓(恵庭市立若草小学校一年)

しぜんのかんさつ

佳作(十八点)

三谷友理恵(恵庭市立和光小学校六年)

四種類の水と切り花の観察

谷村 梨紗(札幌市立緑丘小学校五年)

アゲハチョウについて

内藤 格(札幌市立共栄小学校五年)

クワガタの生態

内田健太郎(札幌市立新発寒小学校五年)

中の川の微生物

光畑 元晴(中富良野町立字文小学校四年)

トノサマバッタの成長記録

稲葉 貴子(函館市立柏野小学校四年)

カタバミのせいしつ

加藤 汐里(紋別市立潮見小学校四年)

雑草調べ

神 真奈美(北広島市立広葉小学校四年)

野鳥観察

大泉 輝晃(札幌市立新発寒小学校四年)

恐竜の不思議

竹中 諒(札幌市立信濃小学校三年)

昆虫日記

曾我 章太(札幌市立清田南小学校三年)

フタホシコオロギのかんさつ記録

杉原 航太(旭川市立西神楽小学校三年)

小スズメの成長

柴田 泰行(音別町立音別小学校二年)

ぼくのと山記ろく

小上 拓也(札幌市立あいの里西小学校二年)

かぶと虫新聞

二階堂鷹誠(道教育大附属札幌小学校二年)

アリのかんさつ日記

木戸浦大樹(函館市立北美原小学校二年)

すず虫かんさつノート

望月 礼奈(別海町立豊原小学校一年)

ひまわり

田村 桃子(紋別市立潮見小学校一年)

くわがたにつき

○学校賞

。札幌市立新発寒小学校

。同 緑丘小学校

。紋別市立潮見小学校

。北広島市立広葉小学校

金賞

タンポポの研究

恵庭市立若草小学校四年
伊藤 結美

〈研究のきっかけ〉

三月のおわりに、庭で雪どけの中に少しこおったタンポポの葉をみつけました。春に花をさかせるために、小さい葉と根だけでこんな寒い冬をしているのだなと感心しました。四月の初めにはまた雪がふって、葉がみえなくなつたので、私は春がくるのが楽しみにになりました。

いつもよくみるタンポポだけど、調べるとたくさん種類があることや、外来種がふえていることなど、いままで知らなかつたことやふしぎなことがたくさんあつて、今年にはタンポポを研究することにしました。

〈大変だつたこと〉

エゾタンポポがなかなかみつからなかつたのでいろいろな所をさがして歩きまわりました。やっと鳥松沢でみつけた時は、うれしかったです。

〈楽しかつたこと〉

四月十一日から八月十四日までいろいろなことが観察できたこと、五月の終りから六月のはじめタンポポの花が一面にさいて、その黄色いじゅうたんの上で、タンポポのかんむりやゆびわを作っているいろいろな遊びをしたことです。

二つのタンポポのちがい




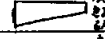
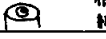
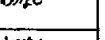
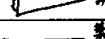
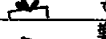
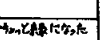
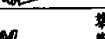
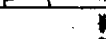
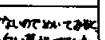
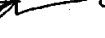

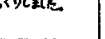
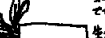

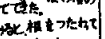
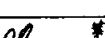
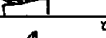
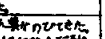


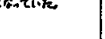
	生えている場所	小花の数 (直径4.2cm)	種の数	葉ギザギザ	根の長さ	花さく時
エゾタンポポ	どこでも	146	すくない	まるみ	みじかい	春だけ
セイヨウタンポポ	しずかないな	206	多い	するどい	長い	春から夏

※ ノートから抜き書きしてまとめたもの

〈観察して感じたこと〉
根を四等に分けて切つてさかさまにうえたら下から白い葉がでて、上へ上へといっしょうけんめいのびているのを見て、私は感動しました。いろいろな実験をたくさんしましたが、タンポポについてまだまだわからないことがありまふ。たとえば「なぜ花がさき終ると花けい横にたおれるのか」などについて、つづけて調べてみたいと思います。

実験2 4cmに切った根をうえる

6月17日 切った根を横たてさかさまにうえてみる

月日	横うえ 	たてうえ 	さかさま 
6/27	 根の上の葉が少し伸びてきた。 根の太さは、切ったときより太くなった。	 根の真ん中から根が細く伸びてきた。	 全然かわりなし
6/30	 根の上の葉が少し伸びてきた。 葉は1cmくらい伸びてきた。	 小さな葉が3つ出てきた。	 全然かわりなし
7/3	 葉は2cmで伸びた。 葉の上の方に伸びてきた。	 葉は1.5cmになって小さい根が1本出てきた。	 上の方から根が伸びたので葉が2枚伸びた。
7/5	 葉は2cmで伸びた。 葉の上の方に伸びてきた。	 葉は2cmに伸びた上に根が2本出てきた。葉は16枚になった。	 葉が2枚伸びてきた。下のほうに葉が伸びてきたので、切り取った。
7/11	 葉は3cmで伸びた。 葉の上の方に伸びてきた。 葉は1.5cmに伸びた。	 新しい根が根の上に伸びた。古い根が伸びた。たてうえは葉の数が少ない。	 5cmの根が根の横の葉から伸びた。 新しい根が伸びたので古い根の上の方に伸びた。
7/15	 葉は3.5cmに伸びた。 葉の上の方に伸びた。 葉は1.5cmに伸びた。	 古い根の横に新しい根が伸びた。古い根が伸びた。たてうえは葉の数が少なかった。	 古い根が伸びた。新しい根が伸びた。古い根が伸びた。
7/21	 葉は4cmに伸びた。 葉の上の方に伸びた。 葉は1.5cmに伸びた。	 葉は2cmに伸びた上に根が1本伸びた。古い根が伸びた。たてうえは葉の数が少なかった。	 古い根が伸びた。新しい根が伸びた。古い根が伸びた。

〈図について〉
本で調べて知つた事柄と、観察記録文、スケッチ、グラフ、写真などを一冊のノートに詳しく記録し、更に大きな紙一枚にまとめています。この図は、そのまとめの一部である。

クモの観察

札幌市立緑丘小学校六年

坂 尚憲

〈疑問について〉

まず一ばん初めにふしぎに思ったのは、どうして巣に穴があいているかということでした。この疑問は実験によってとけました。実験方法は巣に葉をつけることです。そうするとクモはしん動に反応して、内側から外側についている葉を第一足と第二足を使って内側にひきこみ、下に捨てました。そのあとを見ると穴があいていました。このようにして穴があいていくのです。巣にひっかかっている虫を食べる時にも穴があくのだと思います。

二つ目の疑問は、どうしてきれいに巣をはれるのかと言うことです。これは巣をはっているクモを見てわかりました。ぼくが見たのは横糸をはっている時です。クモは横糸をまず間をあけて何本かはり、その間をうめていくというのが、きれいにはるこつだと思いました。

三つ目の疑問は、大きな巣をはっているのによく体の中に糸が入っているなあと言う事です。この疑問はクモを見ていてもわからないので、本で調べることにしました。しかし、どこの本屋に行ってもこのことを書いた本はありませんでした。ぼくは、糸を作りながら巣を作っているんだと思いました。

四つ目の疑問は、かくれ家はどこにあるのかと言うことです。これも巣をゆらすという実験でわかりました。ぼくはベランダにでて、アンテナに

つながっている糸をゆらして見ました。するとクモは上に登ってききました。くり返していると、アンテナの所までできて鉄のつつの中に入りました。

(以下省略)

〈まとめ〉

ぼくはクモが大きらいで、今回クモを観察しようとは思っていませんでした。でも、庭に大きなクモの巣がありちよつと興味が出てきました。それですぐ図かんを開くとクモにもいろいろ種類があり巣のはり方もクモによってちがうことを知り、クモを観察することにしました。

クモだけではないのですが虫は観察すればするほど疑問が次から次へとわいてきます。その疑問を解決していくのも今回はとてもおもしろかったです。

〈おわりに〉

ぼくが一年生の時このコンクールがはじまり、第一回目は「ぼうふらのかんさつ」でした。六年間夏休みになるとふだん気にもとめなかった虫が目につき、観察したくなるようになりました。

これで最後だと思つとちよつとさびしい感じがしますがいい思い出になりました。ありがとうございました。



なつとほくと虫たち

函館市立東山小学校一年

秋葉 凜樹

へほくのいえのまわり

①きよねんおとうさんがとってきたコクワガタ(メス)はふゆごしをした。土は山からふようどを三かいもとってきた。

②アゲハチョウ ぼくのいえのわにはサンショウの木がうえてあります。アゲハチョウがたまごをうみます。たまごをとってきていえでそだてました。二ひきアゲハチョウにしました。

③トノサマバッタ なかの川ダムこうえんで、トノサマバッタのよう虫をつかまえました。いえでくさをかえてそだてました。だっぴのときしんでしまいました。

④ツチイナゴ ぼくのいえのとなりのこうえんでツチイナゴをとりました。草を取ってきて、まだ生きています。ししくばこのなかでギーギーなっています。

⑤スズムシ おとうさんがスズムシのよう虫(四だんかい)をもらってきました。せい虫になつてはねをこすってリーン、リーンとないています。

⑥ミヤマクワガタとノコギリクワガタ よる、おとうさんとなかの川ダムにいて、ミヤマクワガタ(オス)とノコギリクワガタ(オス)をつかまえました。でんきのところにとんできました。ノコギリとミヤマは、ツノのさきでみわけます。ツノのさきがわかれていて、ミヤマク

ワガタです。

おとうさんのおともだちが、ミヤマとノコギリのメスをくれました。足のうらのいろで見わけました。でもメスはすぐしにました。

へ二セコの虫たち

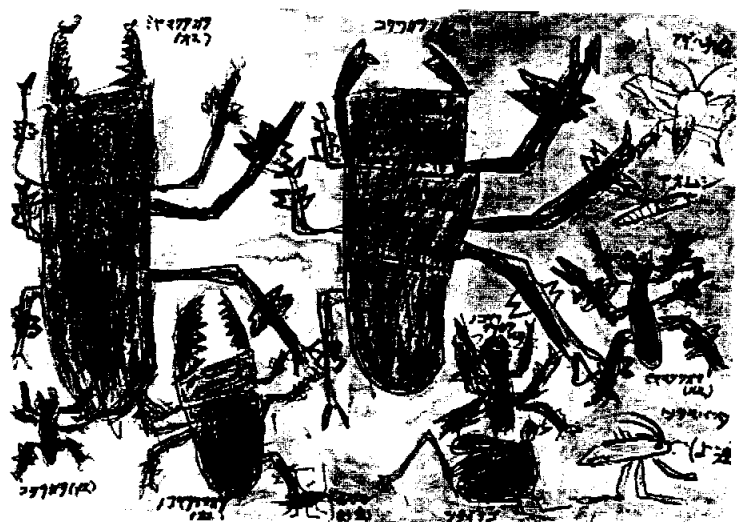
①ミヤマカラスアゲハ アオとミドリとクロのミヤマカラスアゲハをつかまえました。大きくてきれいないろにおどろきました。さとう水をやりましたがしにました。



②エゾゼミ じょうずにとべなくて、あるいていたエゾゼミをつかまえました。はじめてつかまえてうれしかったです。すぐしにました。

③シオカラトンボ 大きくてあおくてとてもはやくとぶトンボをみました。ずかんでしらべました。オオシオカラトンボとわかりました。

④アオカナブン みどりいろで、ひかるととてもきれいなアオカナブンをみつけました。でもしんでいました。いきたアオカナブンをみたかったなあ。



しぜんのかんさつ

恵庭市立若草小学校一年

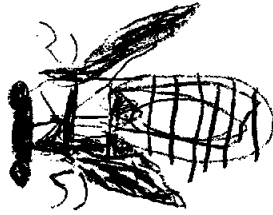
山本 拓

七月三十一日



せみのぬけがら

おしりがハチみたいでした。あしが四ほん、手が二本。手ははさみみたいで、口がぼうみたいです。あしにけがはえています。あながあいて中がみえました。はねがありません。



ちばのはやしの中でつかまえた

八月六日(あぶらせみ) はねのもように、きみどりいろがありました。みつをすっているとき、とろうとすると、しっこのようなものをだします。めのいろは、ちやいろです。おすは、おなかのよこがたらんとなっています。



オス

八月六日(くわがたむし) ひるまはつちの中にいます。よるはつちからできます。



メ

八月十日(あぶらせみ) ちばのはやしでつかまえました。メスはなかない。めのよこに、はなのようなものがあります。

銅賞

木に集まる虫しらべ

小樽市立望洋台小学校五年

鳴崎 孝平

一、この観察をしようと思ったわけ 木にみつをつけたら、どんな虫がくるだろうと思った。

二、使ったもの

人工樹液、容器、はけ、カメラ、かい中電灯、バナナ、ストックキング

〈人工樹液の作り方〉

なべに水二百ccと黒ざとう百ccを入れて、まぜながら中火でふつとうさせる。黒ざとうがとけたら日本酒四十ccと、す二てきを入れる。

〈バナナの使い方〉

じゅくしたバナナをストックキングの中に入れてもむ。それを木にしぼりつける。

〈バナナをつけたわけ〉

樹液だけだとあまり虫がこなかったので、バナナのくさったたにおいでよんでみようと思ってやった。

三、観察した場所

近くにあるトンネルの入り口の駐車場の木

四、観察した木

カブトムシやクワガタムシは、クヌギ、コナラ、ミズナラ、ニレ、クリの木が好きだと図かんに書いてあったのでクリ、ミズナラそしてそれ以外の木からは北海道に多いカラマツの三種を選んだ。

五、観察の時間

八月二日〜八月八日までの一週間

六、観察時刻

六時、九時、十二時、十五時、二十一時の五回見て回り次のことをした。

- ①人工樹液がなくなっていたらぬる。
- ②虫がきていたら、写真をとる。
- ③きていた虫のことをメモする。
- ④何の虫がきているか観察する。

七、観察の結果

六時—スズメバチ(コガタスズメバチ)

ハエ(キンバエ、イエバエ)

チョウ

九時—スズメバチ(コガタ、キイロ、クロ)

ハエ(キンバエ)

アリ

十二時—スズメバチ(コガタ、クロ)

ハエ(キンバエ、イエバエ)

アリ

十五時—スズメバチ(コガタ、キイロ、クロ)

ハエ(キンバエ、イエバエ)

ガ

バエ

カマドウマ

ハサミムシ

(以下省略)

カイコの一生

札幌市立太平小学校三年

本間 詩織

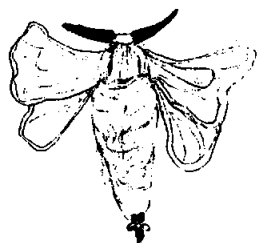
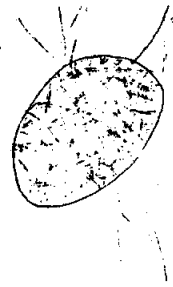
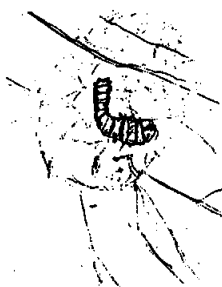
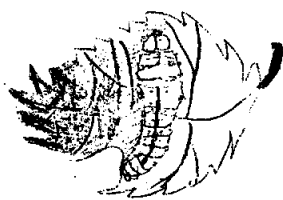
七月二十九日(木)

学校で見たときよりも、ずいぶんとせいちょうしました。だけどわたしの家には、ねこがいるのでカイコの入れものにつかっている「しいくぼこ」をたおしていました。

七緑ぐらいです。もうカイコはきいろくなってまゆを作りそうなのもいます。お母さんとわたしで、まゆを作るためのおへやを作りました。

七月三十一日(土)

カイコのような虫はだんだん大きくなりました。カイコはさいしょながくなってから、ふとくなりました。体についているくろいわっかがあります。今日はうしろからかいてみました。このまえのえは、みじかすぎたのでちゃんとかいてみました。



八月三日(火)

二ひき目も作りはじめました。体をくねらせて、まゆを作っているようすが見えます。

八月四日(水)

一ぴきだけきいろいまゆを作りました。きいろと白いまゆがあるのでオスカメスがでてくるんだなと思いました。

八月十二日(木)

カイコがせいちゅうになりました。白いガがまゆの中から出てきました。ガはじつとしてうごきません。

八月十五日(日)

メスがたまごをうんでいるところをかきました。たまごはだいたい五百こぐらいうみまます。たまごは一弱ぐらいです。

(以下省略)

しつげんのホタル

釧路市立旭小学校二年

樋田 梢

お父さんが、「夏休みになったらホタルを見に行こう。」と言いました。

七月二十四日の土曜日に、夕ごはんを食べてから家ぞくで、おんねないに行きました。お父さんの車で走りました。つるいの梢ばしをわたり、さかのぼってジャリ道を通って、ピジターセンターのうらに車を止めました。

それから、林の中の木道を歩いてしばらく行くと、草や水のあるところにつきました。くらいの中に、小さなおしりをピカピカきいろに光らせて、ホタルがいました。たくさんの人が、わたしたちと同じようにホタルを見にきていました。

ホタルは、草のかけにかくれたり、水の上をとんだり人の顔にとまったり、いろんなところにとんでいました。そのたびに、小さな光が行ったりきたりするので、わたしはホタルが光のダンスをおどっているように見えました。

わたしもホタルといっしょにおどりたくなったので、そっと手を出してみました。でも、ホタルは水のほうににげて行きました。

よそのおじさんが、かいちゅうでんとうでまわりをてらしてくれました。ホタルといっしょに、き色や赤の花がたくさんさいていました。

かえる時、空にきれいな星がいっぱい出ていました。

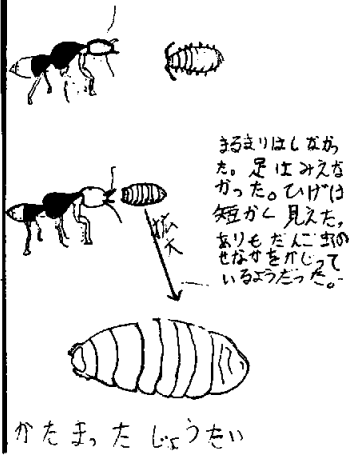
だんご虫の観察

札幌市立緑丘小学校四年

坂 和優

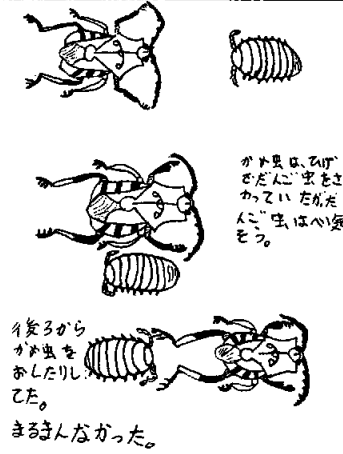
家の庭や畑の石の下やしめったところをさがしたがワラジ虫しかいなかった。近くのちゅう車じょうの草むらにダンゴムシがかたまっていた。そこには、はさみ虫やけ虫、ごみ虫やありもいた。ダンゴムシは、どういう時におどろいてまるくなるのか実験してみた。

ムネアカ材アリのば合



介たま たじょうをい

しぎがめ虫のば合



後ろからが虫をおしたりした。まるまらなかつた。

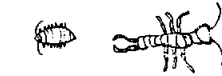
銅賞

アリじごくの観察

札幌市立南の沢小学校三年

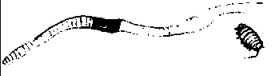
政田 駿

はさみ虫のば合



まるまらなかつた

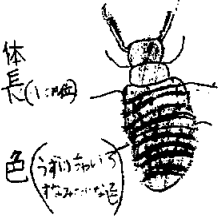
みみずのば合



まるまらなかつた

六月二十三日(水)

学校の帰り、ともだちと公園のすな場でウスバカゲロウのよう虫を



体長(1.1cm) 色(うりかき) (おみたく) (二本で) (かす) (かす)

一ぴきつかまえて、ふくろにいれて、家

〈まとめ〉 ぼくは八月中に成虫になると思っていたけど、きつたらなかつた。ちっちゃいよう虫もいたから、きつたら何年かかかってサナギになると思う。 〈わかつたこと〉 ・アリじごくは公園のひかげのすなのあるところにいる。 ・すなにもぐるときおしりからもぐり。 ・生きているアリのたいえきをする。 ・アリのがいの虫のたいえきもする。 ・あおむけにするとすぐむきをもどす。 ・からだには毛がいっぱいはえてる。

Handwritten diary entry dated 7月2日(金) describing an experiment with grasshoppers and ants, including a diagram of a grasshopper's legs.

Handwritten diary entry dated 6月28日(月) and 6月29日(火) describing observations of ants and grasshoppers, including a diagram of a grasshopper's legs.

学年別応募点数と入賞者数

学年	応募点数	入賞者数				
		金賞	銀賞	銅賞	佳作	計
1	10		1	1	2	4
2	23			1	4	5
3	16			2	3	5
4	21	1		1	5	7
5	21			1	3	4
6	13		1		1	2
計	104	1	2	6	18	27

自然を見つめ続けよう

審査を終えて

審査委員長 伊達佐重

コンクールに参加されたみなさんが、身のまわりの自然をしっかりと見つけて記録をまとめた努力に対し心からの拍手を送ります。

今回の金賞は、エントアンポポとセイヨウタンポポの成長において芽ばえから花までの研究を続けた伊藤結美さん。昨年に続いたの連続入賞です。両方のタンポポをくらべながら、その違いをはっきりと浮き出させるまとめ方は本当に見事でした。

銀賞の秋葉瀧樹さんは大好きな昆虫をさがしながら野山を歩いて、思い切りのいい線で虫の絵を描き、文もつけました。同じく坂尚憲さんはクモのくらしぶりを追いついて、時間をじっくりとかけて粘り強く取り組んだ努力が目立ちました。

銅賞では、温泉のホタルを順序よく作文にまとめた樋田樹さん、だんご虫に色々なものを近づけてその反応を確かめた坂和優さん、同じ手法でアリじごくの中に虫などを投げ入れてウスバカゲロウの幼虫の動きを調べた政田駿さん、木にぬった人工樹液とストッキングにバナナを入れたえさ場を毎日5度も見回りした嶋崎孝平

さんなどの楽しい作品が目立ちました。

審査会の中で問題となったことの一つにカメラやけんぴ鏡のことがありました。「拡大して見る」のも自然観察の一つの方法なのですが、作品は、本人の力以上になつてしまつたからです。自然観察のきはほんは、自分の目と耳と鼻で感じ、そして自分の頭で考え、手で文章や絵として書くことだと思います。

写真の力をあてにしてしまうと、その分だけ見つめる相手をこまかく観察しようとする気もちがうすれてしまうからでしょうね。

終りに一つ。虫や花の名前を正しく書くために調べる、たずねるなどの手間をかけてください。

(一九九九・十・二八の道新より転載)

第6回 夏休み自然観察記録 コンクール 作品募集

◎募集テーマ◎身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。
 ◎応募資格◎小・中・高生に在籍する小学生。
 ◎応募要項◎小学4年生以上が自由応募。高学年は給日記のようなまとめでよい。
 ◎絵は鉛筆、彩色、大書き自由。写真の類として
 (1)作文だけ (2)作文と絵 (3)絵だけなど自由。
 ◎作文は表紙に、絵は裏にそれぞれ応募票を貼る。
 (題名、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を明記してください)
 ◎応募作品は返却しません。
 ◎作文はペン書きで、絵には鉛筆を必ず裏・目や指も入れろ。
 ◎応募先〒7060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 道新ビル6
 (北)北海道新聞印刷部 西011-251-5485
 ◎締め切り1999年9月14日(水)必着(開封は午後)
 ◎入賞者の発表/10月下旬までに北海道新聞上で入賞者を発表し、本人または
 応募する小学校へ返却を希望します。

金賞	1名(賞状、図書券10,000円)
銀賞	2名(賞状、図書券7,000円)
銅賞	6名(賞状、図書券5,000円)
佳作	20名(賞状、ネーチャードキュメントビデオ)
参加賞	無状(賞状、ネーチャードキュメントビデオ)

審査委員

- 伊達 浩三 (北海道自然保護協会会長)
- 佐藤 謙 (同 副会長)
- 伊達 佐重 (同 常務理事)
- 熊木 大仁 (同 常務理事)
- 福地 郁子 (同 常務理事)
- 大久保 フヨ (同 理事)
- 鮫島 博一郎 (自然環境研究室主宰)
- 谷 博 (北海道新聞野生生物基金理事・事務局長)